

# 令和5年度 自己評価報告書

令和6年3月8日

学校法人小泉学園 東京いずみ幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育方針・教育目標

### 【教育理念】

幼児期に適切な教育を与え、優れた人格を育む

### 【教育方針】

#### ①適時教育の充実

年齢や発達に応じて教育内容を豊富にし、適切な指導法で子供が主体的に活動に取り組めるようにする。

#### ②チームティーチングの実践

クラス担任を中心に、専任講師、担任交替（年に数回、一週間程度）、外部機関などが連携協力し、きめ細やかな指導を行う。

#### ③年間行事の活用

年間の諸行事を活用することで豊かな生活体験の場を与え、幼児の活動意欲と技能の向上を図る。

### 【教育目標】

- ・健康な身体
- ・素直な心
- ・豊かな感性
- ・優れた知力
- ・温かい友情
- ・揺るぎない自立
- ・創造的な協働

『いずみの子』 ※園児に教育目標を分かりやすく伝え、皆で唱和する訓辞として制定

- ・強い体と心を持つ。
- ・仲良く遊ぼう。
- ・よく考えよう。
- ・豊かな心を持つ。
- ・今日も一日元気に過ごしましょう。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園が掲げる教育理念・教育方針のもと、教育目標の達成を目指し、子供の育ちを一番に考えた質の高い教育を実践することを目指す。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程・カリキュラム理解を深め、実践力を高める	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・担任交替や年間行事でのクラスの垣根を取り払った活動の展開などを通して、教職員が教育課程ならびにカリキュラムへの理解を深めることができた。</li><li>・経験年数の浅い担任については、経験年数の多い担任と比べてカリキュラムの実践を通していかに教育目標に掲げる子供の資質を育むかの理解に差があった。</li></ul>
2	教育の質向上のために、園内・園外研修を充実させる	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・姉妹園との連携を深め、該当学年同士の実地での教育研修、ビデオによる振り返りを計画的に行った。</li><li>・歌唱やクラスでの指導の様子を動画で共有し、オンライン上でコメントをし合うことで気づきを得る仕組みにより、指導をする上での目標設定の標準化が図られた。</li><li>・園内研修は、適時教育に関する知識や技術向上に資する研修</li></ul>

			を計画的に実施した。また、バス添乗や外遊び、
3	安全管理体制の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園バスの置き去り防止装置の導入に伴い、バスの安全管理マニュアルの改定を行った。</li> <li>園内の事故防止のため各教室に監視カメラを設置した。事故発生時の検証作業にも利用でき、検証結果から教室内の危険箇所の改善を行った。</li> </ul>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	上記の評価項目については、概ね成果を挙げることができた。今後も、園全体として自己評価に取り組むことで、園運営の改善を継続することを確認した。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題項目	内容・具体的に取り組む方法
1	教育内容の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ研修や振り返りを通して、指導法の更なる改善を図る。</li> <li>教育内容について検証を行い、教育効果の高いエビデンス(科学的根拠)ある教育方法に磨きをかける。</li> </ul>
2	教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教職員の特性とキャリアを踏まえ、教師としての能力向上を図る。また、チームとして成果を産み出すことが組織力であることを念頭に、結果と客観的評価に重きを置いた企業風土を醸成する。</li> <li>姉妹園との合同研修や職階に応じた研修を実施し、学年や職階を跨いだ教職員間の協力体制を一層強化する。</li> </ul>
3	園教育の情報発信力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や入園希望者に対し、園が実践する教育内容やカリキュラムを通して育つ子供の資質について、更に分かりやすく情報発信するように努める。</li> <li>具体的には、園HPや公式インスタグラムの活用、動画を活用した教育活動の紹介を通し、保護者と保育の場を共有することで、子育て力の向上に貢献する。また、全ての保護者と担任が直接コミュニケーションを取れる場面を通じて信頼関係の醸成に努める。</li> </ul>

東京いずみ幼稚園学校評価委員会

園長 小泉 敏男

副園長 小泉 貴史

事務長 吉野 秀幸

教諭 瀧口 久美子

以上

## 令和5年度 学校関係者評価報告書

令和6年3月16日

学校法人小泉学園 東京いずみ幼稚園

出席者 【学校関係者評価委員会】 佐藤 弘子、矢澤 憲治、河野 吉孝  
【東京いずみ幼稚園職員】 小泉敏男園長、小泉貴史副園長、吉野秀幸事務長

### ◆自己評価について

- ・令和5年度の自己評価について、副園長から自己評価報告書に基づいて説明を行った。また、添付資料としてパンフレットなどの資料を付した。

### ◆学校関係者評価委員の意見

- ・今年度は、社会全体もコロナ禍から正常化の方向に向かい、園の計画する教育を実践するにあたって障害が少なくなるように思われた。
- ・しかし、実際にはこの一年が創立48年間で一番欠席者が多かったため、特にお遊戯会の練習期間中は、練習に影響が出たと聞いた。それでも、園長先生の揺るぎない信念のもと、子供達のがびやかに成長していく姿が見られ、最後の定期演奏会などは成功を収め、大変良い成長ぶり感じることが出来た。
- ・園の掲げる教育理念・教育方針・教育目標を実現するために、具体性のある教育方法を開発・実践することが園全体で共有されており、それを支える教職員の資質向上にも努めていることが窺える。今後は職員定着とともに更なる実践力向上が期待される。
- ・来年度は、少子化や保育園利用者の増加の影響もあり入園者数が減ると聞いているが、情報発信の面で必要な策は打ち始めていると聞いている。園の存在意義は、子供が成長できる確かな教育方法の提供にあり、それを通して子供が成長することが家庭の幸福に直結している。不易流行の言葉のとおり、伝え方は時流に合わせてつても、今後も「いずみ」らしい子供の育ち第一の園づくりを継続し、更なる発展を願いたい。

以 上